

熊本市の がん検診受診率向上の取組み



1

健康づくり推進課

がん検診を取り巻く現状

がんによる死亡者

・全国のがんによる死亡者は全体の約28.7%を占め1位、本市においても死亡者全体の29.3%を占め、昭和51年から引き続き1位の状態が続いている。

本市のがん検診の状況

・本市のがん検診受診率は、目標を設定し受診率向上を目指しているが、ここ数年横ばい又は微減傾向が続いていたが、特に平成28年度は震災で受診率が大幅に落ち込んでいる状況。

国の状況

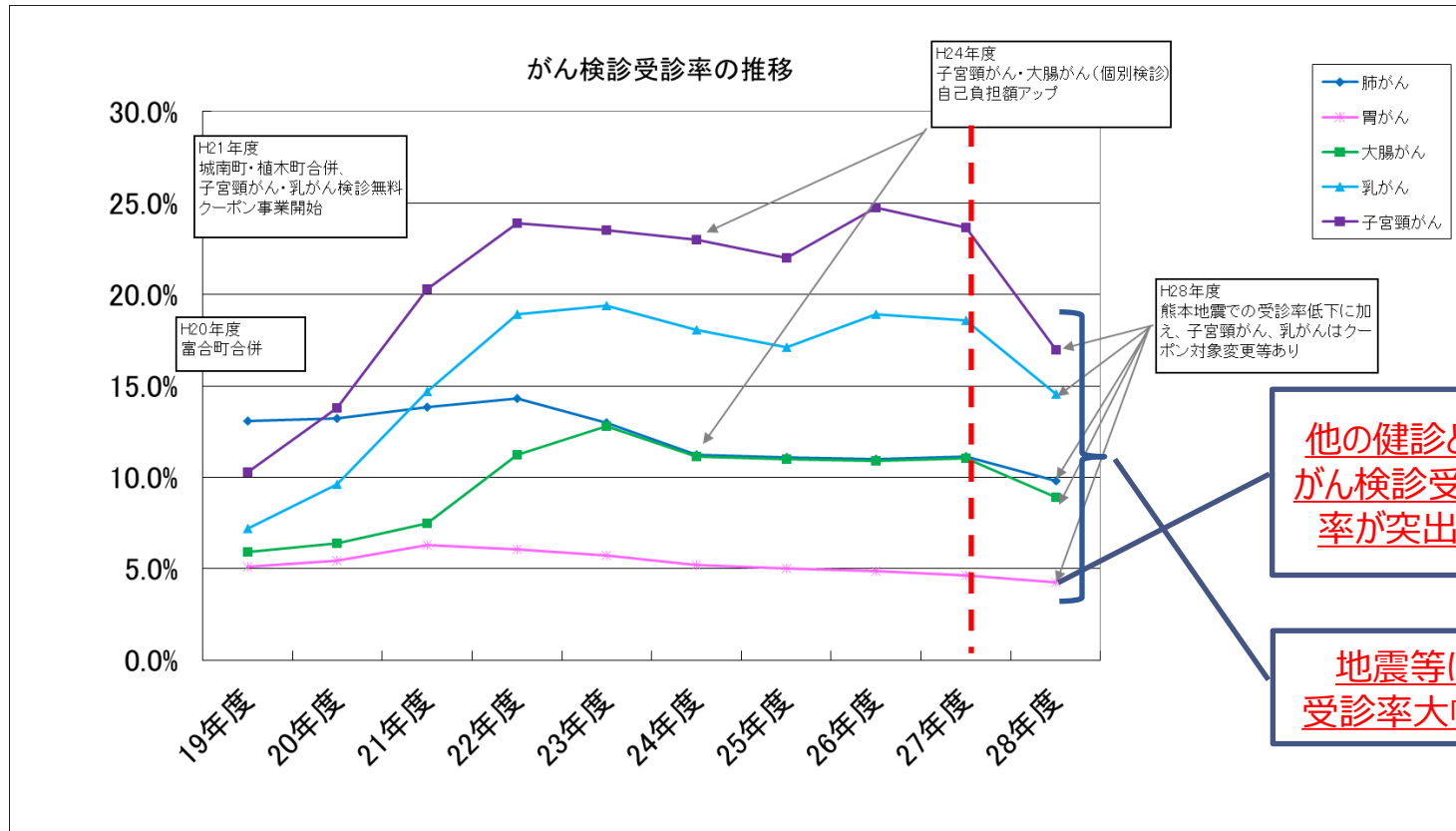
・「がんの年齢調整死亡率20%減少」を目標に取り組を進めていたがん対策推進基本計画において計画期間での目標達成に到らなかった理由としてがん検診受診率の目標値が達成できなかったことが原因に挙げられている。

市長公約

・がん検診の完全無料化による受診率向上、健康診断への腹部エコー検査の導入などによって、早期発見・早期治療の機会を増やし、医療費を削減

熊本市のがん検診受診率

検証指標	基準値 (H28実績)	受診者 実数	目標値 (H31年度)	受診者 見込
肺がん検診受診率	9.8%	20,000	13.1%	26,695
胃がん検診受診率	4.2%	8,658	6.7%	13,635
大腸がん検診受診率	8.9%	18,108	13.0%	26,491
乳がん検診受診率	14.5%	9,287	19.2%	12,627
子宮頸がん検診受診率	17.0%	13,095	24.5%	20,755



政令指定都市における本市のがん検診受診率

本市のがん検診受診率は、肺がん12位、子宮頸がんの13位、続いて胃がん14位、乳がん15位、大腸がん17位となっており、他都市と比較すると相対的に低い状況

【肺がん】

政令市	受診率
1 さいたま市	35.5%
2 千葉市	34.5%
3 浜松市	31.7%
4 岡山市	28.8%
5 仙台市	28.5%
6 広島市	25.1%
7 静岡市	22.9%
8 川崎市	22.9%
9 相模原市	21.6%
10 名古屋市	21.5%
全国	18.4%
政令市	14.5%
11 新潟市	13.0%
12 熊本市	11.1%
13 京都市	8.2%
14 横浜市	8.1%
15 大阪市	6.2%
16 神戸市	5.2%
17 福岡市	4.4%
18 堺市	3.9%
19 北九州市	3.7%
20 札幌市	3.1%

【胃がん】

政令市	受診率
1 仙台市	17.6%
2 千葉市	16.0%
3 岡山市	14.5%
4 広島市	11.6%
5 名古屋市	8.9%
全国	8.5%
6 新潟市	8.3%
7 さいたま市	7.6%
8 相模原市	7.5%
9 札幌市	7.0%
10 浜松市	6.9%
政令市	6.8%
11 静岡市	6.4%
12 横浜市	6.1%
13 神戸市	4.7%
14 熊本市	4.7%
15 大阪市	3.9%
16 堺市	3.7%
17 川崎市	3.6%
18 福岡市	3.5%
19 北九州市	2.6%
20 京都市	2.1%

【大腸がん】

政令市	受診率
1 さいたま市	33.1%
2 浜松市	30.9%
3 千葉市	30.9%
4 新潟市	25.4%
5 相模原市	25.2%
6 広島市	24.4%
7 仙台市	24.1%
8 川崎市	23.4%
9 岡山市	22.4%
10 名古屋市	22.1%
11 神戸市	21.5%
全国	20.8%
12 静岡市	20.4%
政令市	18.7%
13 横浜市	16.3%
14 札幌市	14.9%
15 堺市	14.4%
16 福岡市	11.2%
17 熊本市	11.0%
18 大阪市	10.0%
19 北九州市	9.4%
20 京都市	7.7%

【乳がん】

政令市	受診率
1 仙台市	36.8%
2 広島市	33.7%
3 千葉市	31.5%
4 さいたま市	26.8%
5 相模原市	25.6%
6 浜松市	24.9%
7 札幌市	24.3%
8 川崎市	24.3%
9 神戸市	24.1%
10 名古屋市	23.6%
11 横浜市	22.8%
12 静岡市	22.7%
政令市	22.4%
全国	22.4%
13 新潟市	20.4%
14 福岡市	20.2%
15 熊本市	18.6%
16 堺市	17.6%
17 北九州市	16.4%
18 大阪市	15.5%
19 京都市	14.1%
20 岡山市	13.7%

【子宮頸がん】

政令市	受診率
1 広島市	37.2%
2 名古屋市	35.7%
3 仙台市	34.1%
4 福岡市	33.3%
5 札幌市	32.6%
6 千葉市	29.8%
7 静岡市	28.6%
8 横浜市	28.5%
9 相模原市	28.1%
10 川崎市	27.9%
11 浜松市	27.2%
政令市	26.3%
12 さいたま市	25.0%
全国	23.8%
13 熊本市	23.7%
14 北九州市	22.7%
15 堺市	22.5%
16 岡山市	19.3%
17 新潟市	18.7%
18 大阪市	18.4%
19 神戸市	17.1%
20 京都市	13.0%

がん検診受診率政令市比較 (H27年度)

受診率向上の取組みについて

受診率向上に向けてこれまで様々な取組みを行ってきたものの、即効性のある向上策は中々見つからない現状。

科学的根拠に基づいた受診率向上策としては、米国CDCが提唱している中で「個別受診勧奨」、「スモールメディア」などのエビデンスに基づいた向上策、また他都市で実績を上げている受診勧奨策などの調査、研究を行った上で、取り組んで行きたい。

米国疾病管理センターで効果が確認されている受診勧奨	国が推奨する取組み
<ul style="list-style-type: none">・個別受診勧奨・スモールメディア（個人特性に応じた啓発媒体活用）・1対1の健康教育など・かかりつけ医からの受診勧奨・受診環境の整備・負担費用軽減 <p>※米国疾病予防管理センター（CDC）</p>	<ul style="list-style-type: none">・費用の免除等による受診機会の創設・受診経験者への継続的な個別勧奨・再勧奨の実施・かかりつけ医による受診勧奨・自己負担額が高額ではないことの周知・がんに関する知識の普及活動 <p>※がん検診のあり方に関する検討会中間報告書（H25.8）</p>

熊本市がん検診受診率向上計画

～がん検診受診率向上に向けた取組み～



熊本市 健康づくり推進課

平成 29 年 4 月

熊本市がん検診受診率向上計画

～がん検診受診率向上に向けた取組み～

はじめに

がん検診はがんを早期発見することにより、がんによる死亡率を低下させることを目的としています。このがん検診の実施に当たっては、科学的根拠に基づく検診を適切な精度管理のもと実施し、受診率を上げていくことが重要です。

本市のがん検診の受診率の推移を見てみると、ここ数年横ばい、または微減傾向です。また、現時点で平成 28 年度の受診率は出ていませんが、昨年 4 月に発生した熊本地震の影響で、多くの方が受診機会を逸し、受診率の大幅な落ち込みが予想されます。

このような中、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間で対象とした「がん対策推進基本計画」において「がんの年齢調整死亡率 20% 減少」を目標に取組みを進めていた計画期間内での目標達成に到らなかった理由として、国はがん検診受診率の目標値が達成できなかったことを原因に挙げています。

平成 27 年度に行った市民アンケート結果によるとがん検診を受診しない理由は「いつでも医療機関で受診可能」が最多です。またアンケート結果には「検診を知らなかったから」、「検査に不安があるから」などの意見もあったことから、まず、これまで同様がん検診の目的を始め、メリット、デメリットを含めた正しい知識の普及に努め、市民にがん検診の重要性を浸透させる必要があります。

更に、がん検診の受診率向上に取り組むためには、まずがん検診の現状を理解し、これまでの検診の実施方法の検証を行なうとともに、科学的根拠に基づいた受診率向上策や着実に成果を重ねている自治体の事例を参考にするなど、新しい取組みにも挑戦しながら、一歩ずつ進めていく必要があります。

目標：第7次総合計画目標値
期間：H29年度～H31年度

がん検診受診率向上

がん及びがん検診に関する周知・啓発

がん検診受診環境の整備

企業・団体等との協働による取組み

効果的な受診勧奨

効果的な検診方法等の導入・検討

取組み概要

- ・がん及びがん検診の正しい知識の普及
- ・あらゆる機会を捉えた広報の実施
- ・各種団体等に対する

具体的取組み

- ① 市政だより、リビング新聞、すばいす、ラジオ等を活用した広報
- ② 他課等の行イベントを活用した市民啓発
- ③ 乳幼児健診来庁者への乳・子宮頸がんパンフレット配布
- ④ 区民まつりなど地域イベントにおける啓発
- ⑤ GAN ANGELS※1を活用した啓発
- ⑥ KKTとの協働による市民啓発の実施（今後検討）
- ⑦ 熊本市いきいき健康大使（ミス・ユニバース・ジャパン熊本ファイナリスト、SKK※2、Book Bear※3）の協力による啓発
- ⑧ 市PTAなど各種団体会員向けの広報

※1北區宛様の保健師を中心としたがん検診啓発隊
※2子宮頸がん検診を啓発する熊本大学生を中心とするアイドルユニット
※3 ミス・ユニバース・ジャパン熊本ファイナリスト、SKK、Book Bearのメンバーにより構成

取組み概要

- ・特定健診とがん検診の同時実施
- ・休日がん検診の実施
- ・応急仮設住宅等への巡回検診

具体的取組み

- ① 5区における特定検診とがん検診の同時実施及び拡充
- ② 休日がん検診実施体制の整備
- ③ 夜間等の検診体制
- ④ 応急仮設住宅における巡回検診の実施（H28年度～）
特定検診との同時実施等も検討
- ⑤ 熊本市がん対策企業等連携協定企業の参加呼びかけ
※職員パート従業員への受診機会の提供依頼など

取組み概要

- ・包括連携企業との連携強化
- ・がん対策企業等連携協定企業との協働の取組み

具体的取組み

- ① 包括連携協定企業（尚綱大、イオン、佐川急便）との連携による受診率向上の取組み
※各企業の職員及びその家族に向けたがん検診勧奨
- ② 熊本市がん対策企業等連携協定企業との協働の取組み（今後検討）
- ③ 市内企業内における巡回検診の実施（今後検討）
※がん検診受診機会のない、臨時、パート社員などの受診環境整備。
- ④ かかりつけ医などによるがん検診受診勧奨
※その他薬剤師、歯科医師など
- ⑤ がん対策連携協定企業会議

取組み概要

- ・検診初年度対象者に対する受診勧奨
- ・退職により受診機会を失った方に対する受診勧奨
- ・時期に応じた勧奨

具体的取組み

- ① 検診初年度対象者（40歳到達者）等に対する受診勧奨
- ② 退職により受診機会を失った方（62、65、68歳到達者）に対する受診勧奨
- ③ 子宮頸がん発症リスク者に対する受診勧奨（20～38歳女性）
- ④ 集団健診受診者への受診勧奨
- ⑤ 熊本市がん対策企業等連携協定への受診勧奨及び知識普及（毎年度初旬）
- ⑥ 10月のピンクリボン月間における受診勧奨（H28年度～）
・生命保険会社の協力を得て、保険外交員による受診勧奨を行う。
- ⑦ 市PTA協議会へのがん検診受診勧奨。（H28年度～）
- ⑧ 新たな受診勧奨の検討
- ⑨ 乳がん検診受診勧奨（42～48歳女性）
- ⑩ 乳がん・子宮頸がん次年度対象者への受診勧奨（年度末実施）

取組み概要

- ・大腸がん検診検体郵送の取組み
- ・胃内視鏡検査の導入検討
- ・新たなステージに入ったがん検診総合支援事業（無料クーポン事業）

具体的取組み

- ① 大腸がん検診の検体郵送
※冬期（11～2月）における検体郵送の試行
- ② 胃内視鏡検査の導入検討
※平成28年2月改定された国のがん検診指針の導入
※現在他政令市の状況を調査中。
- ③ 新たなステージに入ったがん検診総合支援事業（無料クーポン事業）の実施
- ④ クーポン券対象者に対する再受診勧奨
- ⑤ 大学における学生健診と子宮頸がん検診の同時実施検討
- ⑥ がん検診自己負担金のあり方についての調査・分析

受診率向上の主な取組み

- 1 **がん及びがん検診に関する周知・啓発**
 - ・熊本市いきいき健康大使の協力による啓発（H29年度～）
- 2 **がん検診受診環境の整備**
 - ・応急仮設住宅における巡回検診の実施（H28年度～）
 - ・冬期における大腸がん検診の検体郵送（H29年度～）
- 3 **企業・団体等との協働による取組み**
 - ・がん対策連携協定企業会議を開催（H29年度～）
 - ・協定企業との連携事業実施（H30年度）
- 4 **効果的な受診勧奨**
 - ・受診勧奨の拡充（がん検診ハイリスク者など）（H29年度～）
- 5 **効果的な検診方法等の導入・検討**
 - ・胃がん検診における内視鏡検査導入検討（H28年度～）
 - ・効果的な無料クーポン事業の実施（H29年度～）

1 がん及びがん検診に関する周知・啓発

熊本市いきいき健康大使の協力による啓発

(H29年度～)



熊本市いきいき健康大使

市民の健康に対する意識の醸成を図るとともに、健康寿命の延伸を目指し、本市の健康づくりを推進するため、「熊本市いきいき健康大使」として下記の3団体に委嘱（H29.9）。イベント等で、がん検診の受診啓発などを実施。

1 ミス・ユニバース・ジャパン熊本

※ファイナリスト約10名

2 S.K.K.

※子宮頸がん検診普及ボーカルユニット 8名、熊本大学病院の専門医師や医学部・薬学部などの教員と学生などで構成、子宮頸がん検診受診率向上を目指し結成されたユニット。

3 Book Bear (ブックベア)

※女子小学生くまもと応援バンド5名

市内の小学4年生から6年生までの女子小学生で結成された、熊本シティエフエムがプロデュースするロックバンド。健康づくりに関する歌を通して、健康づくりの啓発を実施している。

2 がん検診受診環境の整備

応急仮設住宅における巡回検診の実施 (H28年度～)



応急仮設住宅における巡回検診等の実施状況

No.	名称	戸数	H28年度		H29年度	
			巡回検診	巡回検診 チラシ配布	巡回検診	巡回検診 チラシ配布
1	塚原仮設住宅	96		○		○
2	さんさん2丁目仮設住宅	16		○		○
3	藤山・藤山第二仮設住宅	195	○	○	○	○
4	舞原仮設住宅	87		○		○
5	平原仮設住宅	27		○		○
6	南田尻仮設住宅	28		○		○
7	秋津中央公園仮設住宅	54		○		○
8	東町仮設住宅 (旧東部土木センター跡地)	38		○	○	○

2 がん検診受診環境の整備

冬期における大腸がん検診の検体郵送 (H29年度～)



◎熊本市大腸がん検診郵送検診の手続き◎

1 郵送検診申込み

電話にて検診機関に申込みを行います。



2 問診票及び便採取容器等の郵送

検診機関より問診票、納付書等を送付します。



3 検診費用の払込み

送付されてきた納付書で検診費用の払込み（300円）をお願いします。



市民税非課税世帯の方、生活保護受給世帯の方は、**市県民税（所得・課税）証明書①**又は**保護証明書**の写しを同封することで自己負担金が無料になります！（検診料の支払いを行った後の払い戻しはできませんのでご注意ください。）

簡単なお手続き!!

6 結果の受領

検診の結果、精密検査が必要な場合は、必ず医療機関での精密検査をご受診ください。



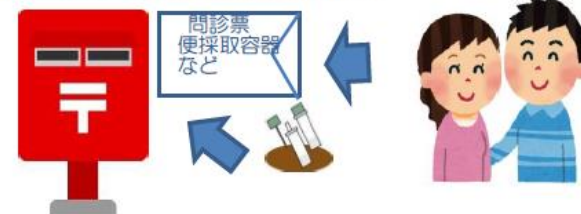
5 分析、結果通知の送付

検診機関より検診結果を送付します。
※検体を郵送してから、約4週間程度でご郵送いたします。



4 問診票、便採取容器等の返送

問診票の記入、採便終了後、問診票、便採取容器を返送用封筒にて返送をお願いします。（市民税非課税世帯の方、生活保護受給世帯の方は、証明書の写しを同封してください。）



大腸がん検診に郵送検診を取り入れた理由

○ 受診率の低い若い世代などの取り込み

- ・現在は、60歳以上の方が巡回検診や旧合併町などで行っている集団検診などで受診していることが比較的多い

○ 受診環境の整備

- ・市民アンケートによるとがん検診を受診しない理由として、時間が取れない、面倒という意見が上位を占めている。
- ・大腸がん検診に限っていえば、便秘、生理などで集団検診時に提出できないこともあるのでは・・・



個別検診、集団検診に加え、これまでの未受診層を開拓するため、郵送検診を受診方法として加えてみてはどうか

熊本市の大腸がん検診受診状況

○年代別受診率

	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
受診者数	1,583	2,006	7,618	5,559	1,340
割合	8.7%	11.1%	42.1%	30.7%	7.4%



○性別別受診率

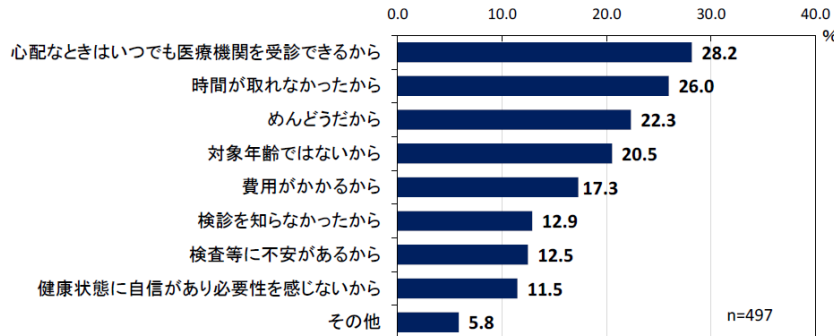
	男	女
受診者数	6,432	11,674
割合	35.5%	64.5%

カテゴリー別に分けてみると、受診が多いのは60歳以上の女性が多い。

市民アンケート調査におけるがん検診を受診しない理由

■受診しない理由 -18歳以上-

受診しない理由は、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が28.2%、「時間が取れなかったから」が26.0%、「めんどうだから」が22.3%、「対象年齢ではないから」が20.5%の順。



※複数回答

郵送検体における精度管理について（その1）

○がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針

⇒大腸がん検診の検体郵送は「温度管理が困難で検査の精度が下がるため、原則として行なわない。」



○精度管理が可能な状態で検体郵送の取組みが行えないか。



○比較的気温が低い、冬期に限定し実施ができないか。

平成28年における熊本市の平均気温（℃）

年間平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
18.0	6.1	7.2	11.4	17.2	21.4	23.7	28.2	29.5	25.9	21.9	13.9	9.2



11月～3月は熊本でも
気温が低い

郵送検体における精度管理について（その2）

○他都市の実施状況（すべて冬期における実施）

政令市（京都市が実施）、県内他都市（菊池市、合志市などで実施）

○精度管理検討の研究例

1 便潜血検査の郵送対応可能性の検討 ※済生会川口総合病院 （2015年5月開催第64回日本医学検査学会）

【方法】7月から9月の夏季、気温の高い日を選び、ポスト放置時間が長くなるように2種類の濃度の擬似便361本を郵送し、Hb残存率を算出

【結果】擬似便の平均Hb残存率は92%以上、実検体で35%以上の正負誤差を生じた検体は28本（7.8%）、陰性転化7本（1.9%）、陽性転化2本（0.6%）

【考察】Hb残存率是对比する冷蔵保存した検体の測定結果から測定誤差範囲、陽性検体が陰性転化した7本のうち3本は測定範囲の陰性転化、2本はHb残存率が著しく低下していた。

【結語】実検体で顕著な陰性化が2本見られた。このような事例回避のためには気温35℃以下、週末投函を避けるなどの郵送条件が推奨される。

2 便潜血検体の郵送提出の取組み ※社会医療法人生長会 （2015年2月開催日本総合健診医学会第43回大会）

【方法】便潜血陽性の検体を集め、陰性の保存緩衝液で濃度調整3つの濃度の試料を作成、それぞれを37℃、50℃で保存2時間目から18日後までのHb濃度を測定

【結果】37℃で保存していたものは18日後までにカットオフ値（100ng/ml）以下にならなかった。50℃保存のものは保存2時間後からHb濃度の急激な低下が見られたが、低濃度試料でも3日目まではカットオフ値以下にならなかった。

【考察】郵送検体受入れをより安全にするためには、採便後2日以内に郵便局窓口に提出することが必要。

他都市の取組み①（合志市）

平成28年度健康管理事業報告会（高野病院）より

- 1 経緯 合志市では平成23年度18.2%と低迷していた。このため、高野病院と包括連携協定を結び、受診率向上に向けた取組みを行った。

※受診率目標平成27年度から3年間で40%まで向上

- 2 現状の把握

市民アンケートを実施し、市民の未受診の理由が明らかになった。

①受診機会が無い45.4%、②面倒13.6%、③忙しい10.4%

- 3 課題への対応

受診しやすい環境整備のため郵送により大腸がん検診セットを送付し、冬期においては郵送提出も可能とした。

- 4 結果 ○受診率の推移

年度	検診対象者	受診者数	受診率
H26年度	16,857	3,904	23.2%
H27年度	17,541	4,503	25.7%
H28年度	18,047	7,106	39.4%

受診率2年間で
7割アップ!

【受診率向上効果】

他都市の取組み②（菊池市）

第27回九州農村医学会報告資料（高野病院）より

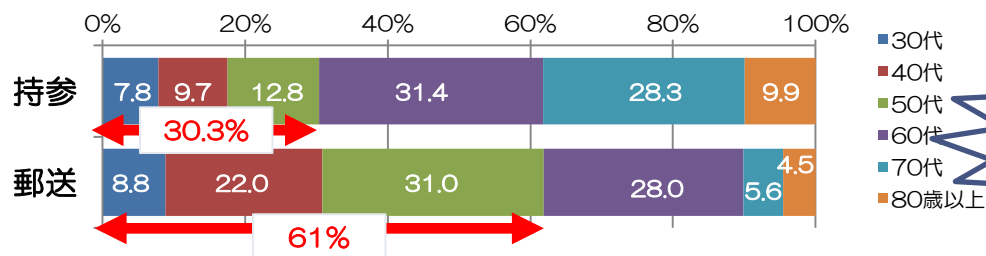
- 1 経緯 菊池市では例年8月～10月に日時会場で検診を行なう集団健診を実施していたが、受診環境整備のため冬期における大腸がん郵送検診を試行した。
- 2 方法 意向調査を行い、希望者に検診セットを送付し冬期において郵送提出を受付けた。
- 3 結果 ①全体の受診率向上効果

○受診率の推移

年度	検診対象者	受診者数	受診率
H26年度	17,042	3,826	22.5%
H27年度	18,201	4,459	24.5%



②若い世代のがん検診受診者の取込み効果



郵送は50歳未満
の受診率2倍!

3 企業・団体等との協働による取組み

がん対策連携協定企業会議を開催（H29年度～）

協定企業との連携事業実施（H30年度）



がん対策連携協定企業について

1 がん対策連携協定企業

がんに関する正しい知識の普及啓発とがん検診のさらなる受診促進に向け、がん検診の効果的な普及啓発を行うため、趣旨に賛同し取り組みにご協力いただける企業及び団体と協定を締結するもの。

2 企業の行う取組み

(企業等の取組み)

- ・従業員等への情報提供
- ・従業員へのがんの療養等の配慮
- ・がん予防を推進する人材の育成
- ・本市のがん検診受診の啓発等への協力 等

協定締結企業等一覧

	企業・団体名	締結日
1	アフラック 熊本支社	平成25年4月26日
2	日本生命保険相互会社 熊本支社	
3	(社) 熊本市社会福祉事業団	
4	(一財) 熊本市勤労者福祉センター	
5	(社) 熊本市社会福祉協議会	
6	(一財) 熊本市社会教育振興事業団	
7	(株) パブリックビジネスジャパン	
8	(株) 熊本銀行	
9	(株) 熊本県民テレビ	平成26年7月2日
10	西部ガス株式会社 熊本支社	平成28年3月24日
11	肥後銀行	
12	富国生命熊本支社	平成28年4月4日
13	オリンパス株式会社 福岡支店	平成29年5月25日
14	山下医科器械株式会社	
15	中外製薬株式会社 熊本支店	平成29年11月8日

○がん対策連携協定企業会議

目的：各企業等の取組事例や熊本市のがん対策等の情報共有、
市または企業同士の連携促進を目的とした会議

日時：平成29年12月19日（火） 10:00～11:30

- 内容：1 連携協定企業等の啓発等取組事例発表
2 熊本市いきいき健康大使について
3 熊本市がん検診の状況及び施策について

○協定企業との連携事業実施

主催：中外製薬株式会社 共催（予定）：熊本市

日時：平成30年5月13日（日） 時間未定

内容：母の日における乳がん講演会（仮称）の実施

4 効果的な受診勧奨

・受診勧奨の拡充（がん検診ハイリスク者など）

（H29年度～）



受診勧奨の拡充（がん検診ハイリスク者など）

受診勧奨は、受診率向上に有効であるため、平成28年度まで5万人程度であった受診勧奨を、平成30年度には4倍以上の約20万人に対し実施する。

受診勧奨区分	資料No.	平成28年度以前	平成29年度	平成30年度
【一定年齢到達者】				
1 新規検診対象者（子宮頸がん：20歳）	①	3,700人	3,700人	3,700人
2 新規検診対象者（子宮頸がん以外のがん：40歳）	②	9,900人	9,900人	9,900人
3 退職世代向け（62,65,68歳到達者）	③	30,000人	30,000人	30,000人
4 節目年齢対象者（46、50歳）	②		20,500人	
5 節目年齢対象者（50、60歳）	②			19,000人
6 無料クーポン対象者（子宮頸がん：21歳）	④	3,700人	3,700人	3,700人
7 無料クーポン対象者（乳がん：41歳）	⑤	5,200人	5,200人	5,200人
8 無料クーポン対象者（子宮頸がん：21歳）再勧奨	⑥		3,700人	3,700人
9 無料クーポン対象者（乳がん：41歳）再勧奨	⑦		5,200人	5,200人
【ハイリスク者向け】				
1 地震で受診機会を逸した市民向け（H25～27受診し、H28未受診者）	⑧		33,000人	
2 子宮頸がんハイリスク者（H29年度、26～38歳、偶数年齢、女性）	①		30,000人	
3 子宮頸がんハイリスク者（H30年度、22～38歳、偶数年齢、女性）	①			31,000人
4 次年度子宮頸がんハイリスク者（H31年度、22～38歳、偶数年齢、女性）	未			31,000人
5 乳がんハイリスク者（H30年度、42～58歳、偶数年齢、女性）	②			41,000人
6 次年度乳がんハイリスク者（H31年度、42～58歳、偶数年齢、女性）	未			41,000人
	—	52,500人	144,900人	224,400人

5 効果的な検診方法等の導入・検討

胃がん検診における内視鏡検査導入検討 (H28年度～)



がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針 における胃がん検診の変更点

平成28年2月4日

種類	各項目	改正前	改正後
胃がん 検診	検査項目	問診、胃部エックス線検査	問診、胃部エックス線検査 or <u>胃内視鏡検査</u>
	対象年齢	<u>40歳以上</u>	50歳以上 ※胃部エックス線検査は、 <u>当分の間、 40歳 以上も可</u>
	受診間隔	<u>逐年</u>	隔年 ※胃部エックス線検査は <u>当分の間、 年1回実施も可。</u>

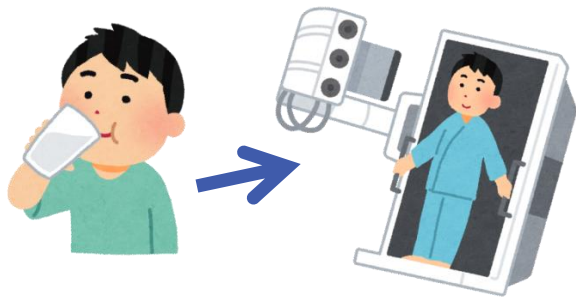
胃がん検診の変更概要フロー

【内視鏡検査導入前】

検診方法：胃部エックス線検査
※集団検診で実施

対 象：40歳以上の男女

受診間隔：逐年



○胃X線検査

- レントゲン検査、造影剤のバリウムと、胃を膨らませる炭酸ガスを発生させる発泡剤を飲んで受診。
- 発泡剤を飲むとゲップが出やすくなるが、胃の粘膜を見やすくするためにゲップの我慢が必要。
- 膨らんだ胃の粘膜にバリウムを付着させるために、身体を仰向けやうつ伏せ、左右に回転させる。
- バリウムは時間と共に粘膜から剥がれ落ちるため、撮影を行いながら身体の回転を繰り返す。
- レントゲンで胃の内部を撮影するため、食事や飲料の摂取制限あり。

【内視鏡検査導入後】

胃部エックス線検査
※対象等は右図参照

or

検診方法：胃内視鏡検査
※個別検診で実施

対 象：50歳以上の男女

受診間隔：隔年



のいずれかの方法を選択

○胃内視鏡検査

- 小型のカメラを装着した細い管を口または鼻から挿入し、食道、胃、十二指腸を直接観察。
- 粘膜の微細な変化も鮮明に見えることから、凹凸の少ない病変や出血なども確認が可能。
- 内視鏡を挿入する痛みを軽減するための麻酔薬や、胃の動きを抑える薬などを利用することから、薬剤アレルギーや持病がある方は注意が必要。
- 管がのどを通過する際に嘔吐反射が起きることがあり、苦痛を感じる場合もあり。苦痛を軽減するために鎮静剤を利用する事もある。
- 内部を観察するため、食事や飲料の摂取制限あり。

胃内視鏡検査の市民ニーズの高さ

市民のニーズについて他都市などが行ったアンケート調査結果によると、胃がん検診で胃
部エックス線検査、胃内視鏡検査の選択肢があった場合、約65%の者が胃内視鏡検
査を選択すると回答している。

① 胃がん検診に関するアンケート調査

調査主体：京丹後市 実施：H28年度

回答数：3,118人

受診希望検査：胃部エックス線検査1,088人（35%）

胃内視鏡検査（胃カメラ検査）2,030人（65%）

② 調査名称：2017年内視鏡検査に関する意識アンケート

調査主体：オリンパス株式会社 実施時期：2017年2月9日～3月23日

回答数：42,141人（男性：17,469人、女性：24,672人）

受診希望検査項目：胃部エックス線検査 35.4%

胃内視鏡検査 64.6%

選択した理由：1位「検査結果が信頼できると思ったから」69.9%

2位「これまでに受けたことがあるから」7.4%

胃内視鏡導入政令市の胃がん検診受診率

区分		導入年-1	導入年	導入年+1	導入年+2	導入年+3	
さいたま市 (40歳以上 逐年)	胃部X線	60,095人	44,439人	39,651人	36,747人	33,539人	
	内視鏡	-	26,847人	35,227人	41,006人	46,681人	
	受診者総数	60,095人	71,286人	74,878人	77,753人	80,220人	
	(伸び率)	対前年比	(-)	18.6%	5.0%	3.8%	3.2%
		対導入年比	(-)	18.6%	24.6%	29.4%	33.5%
	平成21年4月導入	内視鏡比率	-	37.7%	47.0%	52.7%	58.2%
静岡市 (35歳以上 逐年)	胃部X線	13,840人	14,628人	14,380人	14,085人	13,194人	
	内視鏡	-	4,734人	5,538人	6,359人	7,413人	
	受診者総数	13,840人	19,362人	19,918人	20,444人	20,607人	
	(伸び率)	対前年比	(-)	39.9%	2.9%	2.6%	0.8%
		対導入年比	(-)	39.9%	43.9%	47.7%	48.9%
	平成24年4月導入	内視鏡比率	-	24.4%	27.8%	31.1%	36.0%
浜松市 (35歳以上 逐年)	胃部X線	25,309人	21,882人	19,941人	18,499人	17,311人	
	内視鏡	-	12,606人	16,933人	21,236人	23,753人	
	受診者総数	25,309人	34,488人	36,874人	39,735人	41,064人	
	(伸び率)	対前年比	(-)	36.3%	6.9%	7.8%	3.3%
		対導入年比	(-)	36.3%	45.7%	57.0%	62.3%
	平成23年4月導入	内視鏡比率	-	36.6%	45.9%	53.4%	57.8%
川崎市 (40歳以上 逐年)	胃部X線	21,851人	20,435人	15,524人	14,034人	12,557人	
	内視鏡	-	3,522人	17,627人	23,254人	27,759人	
	受診者総数	21,851人	23,957人	33,151人	37,288人	40,316人	
	(伸び率)	対前年比	(-)	9.6%	38.4%	12.5%	8.1%
		対導入年比	(-)	9.6%	51.7%	70.6%	84.5%
	平成24年4月導入	内視鏡比率	-	14.7%	53.2%	62.4%	68.9%
相模原市 (40歳以上 逐年)	胃部X線	18,173人	17,186人	15,097人	14,136人	-	
	内視鏡	-	1,468人	9,652人	11,957人	-	
	受診者総数	18,173人	18,654人	24,749人	26,093人	-	
	(伸び率)	対前年比	(-)	2.6%	32.7%	5.4%	-
		対導入年比	(-)	2.6%	36.2%	43.6%	-
	平成25年4月導入	内視鏡比率	-	7.9%	39.0%	45.8%	-
新潟市 (40・45・50歳以上) (50歳以上は逐年可)	胃部X線	21,671人	26,440人	24,935人	38,707人	36,478人	
	内視鏡	-	8,122人	11,725人	17,648人	23,887人	
	受診者総数	21,671人	34,562人	36,660人	56,355人	60,365人	
	(伸び率)	対前年比	(-)	59.5%	6.1%	53.7%	7.1%
		対導入年比	(-)	59.5%	69.2%	160.0%	178.6%
	平成15年4月導入	内視鏡比率	-	23.5%	32.0%	31.3%	39.6%
福岡市 (40歳以上 逐年)	胃部X線	17,936人	17,686人	17,293人	16,378人	18,019人	
	内視鏡	-	2,777人	5,662人	7,388人	10,231人	
	受診者総数	17,936人	20,463人	22,955人	23,766人	28,250人	
	(伸び率)	対前年比	(-)	14.1%	12.2%	3.5%	18.9%
		対導入年比	(-)	14.1%	28.0%	32.5%	57.5%
	平成12年7月導入	内視鏡比率	-	13.6%	24.7%	31.1%	36.2%
受診者数平均伸び率	対前年比	(-)	25.8%	14.9%	12.8%	6.9%	
	対導入年比	(-)	25.8%	42.8%	63.0%	77.5%	
内視鏡平均受診率		-	22.6%	38.5%	44.0%	49.4%	

さいたま、浜松、川崎市は導入1年から2年で
胃部X線、内視鏡検査の受診者数が逆転！

胃内視鏡導入政令市から見込む胃がん検診受診率

区分	実績	見込み			
	H27実績	導入年	導入年+1	導入年+2	導入年+3
対象者	203,783人	203,783人	203,783人	203,783人	203,783人
受診者総数	9,477人	11,923人	13,696人	15,446人	16,512人
うち内視鏡受診者	-	2,696人	5,275人	6,793人	8,164人
受診率	4.7%	5.9%	6.7%	7.6%	8.1%

**導入後2年目で
目標値に到達！**

検証指標	基準値 (H27実績)	受診者 実数
肺がん検診受診率	11.1%	22,679
胃がん検診受診率	4.7%	9,477
大腸がん検診受診率	11.0%	22,512
乳がん検診受診率	18.6%	11,491
子宮頸がん検診受診率	23.7%	16,973

目標値 (H31年度)	受診者 見込
13.1%	26,695
6.7%	13,635
13.0%	26,491
19.2%	12,627
24.5%	20,755

今後のスケジュール

H29.11～ 予算要求

予算措置後【医師会等外部との調整など】

- ・胃内視鏡検診運営委員会発足準備
- ・実施方法等の検討（別添「実施に当たっての検討内容」を参照）
- ・実施機関との調整
- ・実施体制の整備
- ・市独自のマニュアル等の整備
- ・要綱等の整備
- ・市民、個別検診機関への周知 など

H30年度中 胃がん検診における胃内視鏡検査の導入

5 効果的な検診方法等の導入・検討

効果的な無料クーポン事業の実施

(H29年度～)



がん検診無料クーポン事業

(新たなステージに入ったがん検診総合支援事業)

子宮頸がん・乳がんの早期発見につなげるため、市区町村で実施するがん検診において、検診初年度の女性に対し、がん検診無料クーポン券及びがん検診に関するパンフレットを交付し、女性特有のがん検診における受診促進を図る。

① 子宮頸がん無料クーポン

対象年齢：4月1日現在20歳の者（年度年齢21歳）

対象者数：3,673人 利用者302人（H28）

昨年度利用率：7.8%

② 乳がん無料クーポン

対象年齢：4月1日現在40歳の者（年度年齢41歳）

対象者数：5,535人 利用者1,371人（H28）

昨年度利用率：24.8%

効果的ながん検診無料クーポン事業の実施

例年、最終受診可能月の2月に予約が混みあい受診できないことも多く、結果受診率が伸び悩むこともあるとの想定から、平成29年度は以下の2つの取組みを行った。

① 生まれ月による受診月の指定

対象者	4～6月生まれ	7～9月生まれ	10～12月生まれ	1～3月生まれ
受診機関	7月～8月	8月～9月	9月～10月	10月～11月

② 再受診勧奨の実施

対象者	4～6月生まれ	7～9月生まれ	10～12月生まれ	1～3月生まれ
再勧奨月	9月	10月	11月	12月



【平成29年度の受診率見込】※9月までの実績をもとに積算

区分	H27年度			H29年度		備考
	利用者	利用率		利用者	利用率	
子宮頸がん	332人	8.6%	➡	366人	9.8%	※10.2%伸びの見込
乳がん	1,220人	22.0%		1,878人	36.4%	※53.9%伸びの見込